

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400047		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	ファミリーケア本巢		
所在地	本巢市三橋鶴舞98番地		
自己評価作成日	令和2年12月16日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193400047-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の高齢者が住み慣れた地域で家族や地域の方々との関わりを保つことができる生活を目指しています。具体的には、地域の小中学生の交流会の実施や、年1回のコラボフェスの開催等を通して、入居者・職員ともに地域との関わりをもつ機会を設けています。また、近所の散歩(公園)や喫茶店・外食等へ行くことで地域の方々と交流し相互理解を深め、地域の一員であることを意識して生活できるようにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには広い公園があり、利用者は地域住民と会った際には、会話やコーヒータイムを楽しんでいる。管理者は、「スピーチロック」について、毎月、職員アンケートを実施し一人ひとりの自己覚知につなげ、また、年間研修計画を立て、研修後の報告を必須とし、専門職としての資質向上に取り組んでいる。今年度は、新型コロナ感染予防の為に外出や面会を自粛している為、理学療法士と連携し利用者個別に訓練メニューを作成、リハビリ支援を充実させている。職員もまた、ゆとりを持って利用者の話し相手になるよう心がけている。1月に管理者の交代があったが、引き継ぎも適切に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた行動がとれるよう管理者・職員は理念カードを常に携帯して意識できるようにしてあり、各ユニット内にも理念を掲示している。毎月のユニット会議や朝礼にて全員で唱和し再確認し、理念に基づいたケアを実践している。	理念をユニット毎に掲示している。さらに、職員各自が理念の文言カードを携帯し、常に理念の意識化を図っている。現在、コロナ禍にある為、利用者の安心安全を第一に取り組み、状況に応じて支援しながら、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域のイベントや清掃活動に参加している。地域に対し開かれた事業所となるよう意識して取り組んでいる。	日頃から、地域や自治会の行事連絡等を受け、積極的に参加をしていたが、現在は、感染予防の為、地域との交流を自粛している。毎月、行われる清掃活動には職員が参加し、地域とのつながりを維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校では総合事業の一環として認知症の講座を行っている。その講師として出向いている。小学校との交流は年間行事になっており、利用者との交流を含め類似体験等の学習も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催がコロナウイルスの影響で困難となっており、行政との相談のうえ中止としているが、資料を配布し入退居状況や活動の報告を行っている。	感染予防対策として、運営推進会議は書面会議としている。入居者の状況、活動報告、事故報告などを記載し、外出できない中での取り組み内容を具体的に報告し、意見については書面にて回答を行っている。今後も、コロナの感染状況で開催方法を判断することとしている。	今年度は、新型コロナの影響から、会議開催が困難な状況であった。次年度、地域の役員交代があるメンバーには、引き継ぎを依頼し、円滑な運営推進会議開催とともに、より一層、外部の理解と協力が得られるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスの影響で運営推進会議を開催することができていないが、運営会議の資料配布や定期的に連絡することで協力関係を維持できるよう努めている。	日々、行政から新型コロナ感染症の情報発信を受け、朝の申し送り時に職員に伝えている。コロナ禍における事業所の取り組みを文書で報告しながら、市と広域連合との協力関係を維持し、共有しながら万全の体制で感染予防対策に臨んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を実施し、状況確認を行うと共に、課題が抽出された時は問題解決に向けて取り組んでいる。また、全職員が研修報告書を作成し、職員への知識・理解も深めている。	同じエリアにある同法人事業所合同で、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。また、年間個別研修計画があり、身体拘束廃止、虐待防止などの研修受講を必須としている。毎月、「スピーチロックアンケート」も実施している。職員研修でも、拘束について学び、理解を深めながら、スピーチロックゼロに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に2回権利擁護・虐待の研修を実施し、虐待の理解を深めることで、事業所で統一ケアとして虐待防止の徹底をしている。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は研修を行い、各職員へ学び機会を設けている。後見人制度が必要と思われる利用者に対しては関係者に情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かり易い言葉で説明することを心掛けている。また、疑問・質問に対しては具体的に返答し、必要時には資料等も活用し理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて苦情担当者、公的窓口について説明し理解して頂いている。御家族の面会時に近況報告や要望を伺い、速やかな対応を行うようにしている。	家族の来訪時には、意見や要望について気軽に話せる関係づくりに努めている。コロナ禍の今、利用者と家族の面会を制限せざるを得ないが、物品の受け取り時に、利用者の状態を伝えて、理解してもらっている。また、個別に利用者の様子を報告する家族レターや電話でも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会から挙がってきた意見を聞く機会を設けている。特に感染委員会は事業所の運営にも反映している。	管理者も現場のシフトに入り、職員の意見や提案を聞き、話し合っている。改善できることは迅速に対応し、課題によっては組織として検討をしている。コロナ禍にある事から、今は、面会や外出等が自由にできない状況であるが、職員からの提案や工夫を尊重し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課システムにて各職員が立てた目標に対しての取り組み状況、評価、反省を確認している。また、面談にてその目標作成・実行につなげる為のサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画に基き、オンラインでの研修のみ参加している。また、介護だけでなく訪問看護師協力のもと、毎月、医療に関する勉強会を開催し、その内容をユニット会議で伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の委員会や勉強会に参加してもらい、情報の共有・交換を行っている。また、学んだ情報は他職員へ伝達してサービスの向上に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネと連携をとりながら、入居前から事前情報を収集し職員が状態の把握に努めている。また、入居後暫くは様子を小まめに記録し、情報を共有しながら支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入居者については、小まめに日常の様子をご家族に連絡して安心して頂けるよう努めている。また、職員全員が意識してご家族と意思疎通を図ることで、信頼関係の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科や眼科等往診対応できる所を探し、必要時にご家族に紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に対し、個別性を重視したコミュニケーションを積極的に図りながら適切な対応をしている。外出や外食等御本人の要望をご家族に伝えることで、信頼関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付している家族レターで、日頃の様子や行事・レクリエーションの様子を御家族にお伝えしている。入居者に変化がある時には電話で様子を伝え、支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響にて制限がある為、直接的な面会や外出支援は行えていないが、ご家族に依頼して写真等を持参して頂き関係が途切れないよう努めている。	併設の小規模多機能型サービス利用者との交流や、隣の広い公園で会う近隣住民と挨拶を交わしている。コロナ禍の今、面会は自粛しているが、家族に依頼して、写真や思い出の品などを持参してもらい、それらを話題に利用者やゆっくりと時間をかけて話し、記憶を引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が良く、気の合う方同士でユニットホールの席を配慮し、職員が橋渡しをしながら会話やレクリエーションに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の事業所に退居された際は、退去後の情報を共有したり、必要時、その事業所に出向く等して関係性を断ち切らないようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の見直しの時期や日頃から入居者の希望や意向を聞き取り、職員同士で情報の共有に努めている。	職員は、日々の個別支援や入居時のアセスメントを参考に、利用者の思いや意向を把握している。入浴介助やトイレ誘導時などは、利用者が安心して本音で話してくれる場でもあり、知り得た情報は職員間で共有し本人本位の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様協力のもとアセスメントをとり、入居後は本人様に聞き取りながらより生活習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、入居者の様子や健康状態等を記録に残すことで、職員間の情報共有に努めている。また、特変時には訪問看護へ連絡し早期の対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に担当者をつけて3ヶ月毎にモニタリングを行っている。また、御本人、御家族の意向や希望を伺い、希望に添った生活ができるよう、アセスメントを行い、施設サービス計画に反映させている。月に1回のユニット会議にて計画書の継続・変更も話し合っている。	管理者は、ケアマネジャーでもあり、現場に入って利用者の状態を把握している。計画作成時は家族と意見交換を行い、介護記録、担当職員の意見等の情報を総合的に判断し計画を作成している。コロナ収束後には、計画作成会議に家族の参加を呼びかけ、話し合う機会にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、サービス実施状況をつけることで介護計画書の見直しに活用している。また、入居者の日々の様子を記録に残し、そこでのニーズを職員間で共有し介護計画書の見直し時期に話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族様の対応では定期的に連絡をとり、御家族の希望に沿って事業所ができる範囲内の対応をしている。主治医との連携による訪問診療・訪問看護ステーションとの連携による医療連携、特養の栄養士と食事に関する相談をする等、事業所外の機関も活用している。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響にて地域との顔のみえる関係づくりや交流の機会は設けることができていない。しかし、事業所の隣に公園があるため、そこに散歩に出かけることで地域の方と交流することができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に主治医の確認を行い、御家族の希望される病院をかかりつけ医として定めている。北方在宅クリニックをかかりつけ医とした場合、月2回の医師による訪問診療を実施しており、細かな情報発信、情報共有が行えている。	入居時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、現在、全員が協力医の北方在宅クリニックをかかりつけ医としている。毎日、バイタル測定を行い、月2回の訪問診療と月1回の訪問看護ステーションと連携を図り、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回はバイタル測定を行い、体調の変化に留意している。また、特変時には訪問看護に連絡し指示を受けて対応している。必要時には主治医の往診にも繋げることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院後の経過観察は病院へ連絡し状態の把握に努めている。また、退院時には担当者会議を開催してもらい、退院後の支援に繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、契約時にご家族に説明を行っている。状態の変化が著しい方については小まめにご家族に連絡し現状の状態を把握してもらうように努めている。また、主治医や訪問看護ステーションとの連携により、状況に応じた適切な支援も行っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者と家族に説明し理解を得ている。状態の変化時には早い段階で関係者が話し合い、適切な対応に努めている。事業所の看取り姿勢を明確にした「看取りの指針」を定め、利用者・家族の意思確認、看取り介護体制、実施の内容と記録等を家族と共有しながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って、全職員が落ち着いて行動ができる体制をとっている。また、24時間体制で訪問看護ステーションと連携していることで、必要時には相談がや指示を仰ぐことができ、適切な対応ができる体制もとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署連携のもと、年に2回防災訓練を実施している。今年度はコロナウイルスの影響で消防隊員の参加はできていないが、防災訓練の予定・実施後の報告はできている。次年度は地域の方も参加できるような避難訓練を計画したり、火災だけでなく地震等他の訓練も予定して実施していきたい。	年2回防災訓練を実施し、器具の取り扱い、誘導など夜間想定も含めて実施している。本来ならば、消防隊員の指導の下で実施していたが、今年度は新型コロナ感染防止の為、参加はなかった。後日、訓練計画書と報告書を提出している。備蓄の点検も行い、地震や水害対策についても検討している。	地震、水害についても対策を検討中である。市のハザードマップや過去の被災記録等から、地域の状況を把握し、色々な災害を想定しながら、今後の災害対策に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、常に相手の立場に立った態度で接するとともに、プライバシーへの配慮も行っている。特に排泄時は他入居者に聞こえないよう声掛けをしたり、居室内の物を触ったり動かしたりする時には入居者の同意を得て行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、本人本位の支援に取り組んでいる。コロナ禍の今、様々な制限があるが、利用者を不安にさせない、孤独にさせないことを目標に、これまで以上に声かけを心がけている。また、職員に向けて、毎月、スピーチロックアンケートを行い、スピーチロックゼロに向けて、意識化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めて行動するのではなく、入居者が自己決定や選択ができるよう、分かりやすい言葉かけを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の中での生活パターンや過ごし方を観察し、その方にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助が必要な方に対し、希望の衣類を伺いしながら介助を進めている。女性の方は化粧等を使用し、男性の方は生活歴をもとにその人らしい身なりを御本人と相談しながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を実施し、可能なかぎり反映した献立の提供に努めている。月1回は屋レクリエーションを企画して、行事食や出前を取り入れ、食事に関して楽しみになるよう工夫を行っている。食事の準備は入居者と一緒に行っていないが、下膳が出来る方はしてもらったり、その後の食器洗いやテーブル拭きは役割としてできている。	御飯と汁物はユニットキッチンで調理し、副食は法人の調理室から配食されている。利用者の希望を受け入れながら、状態に応じた形態で提供し、ほぼ全員が完食できている。利用者は準備など、できることに関わり、おやつ作りも一緒に楽しんでいる。以前は、外食にも出かけていたが、現在は、コロナ禍にあるため、外食は中止し、寿司や鰻の出前等で、楽しい食事会を開催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってたてられた献立メニューにより栄養確保が出来ている。食事や水分摂取量の確保に努め、特に水分について好みの飲料水も提供し、水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施しており、義歯の管理も行っており、夕食後には義歯を預かり洗浄液に浸し清潔に保っている。また、口腔内の管理及び歯の治療が必要な方はかかりつけ医と連携を図り診てもらっている。		

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。また、排泄時には自立支援を促し見守りを行いながら、サポートをしている。介助が必要な方には定期的なトイレ誘導を行うことで、トイレで排泄して頂く習慣をつけて頂くようにしている。	職員は、全員の排泄パターンを把握し、利用者の仕草などを見逃さないよう心がけ、声掛けと誘導でトイレでの排泄が習慣になるよう支援している。利用者の状態に合わせて、適切な排泄用品を選択し、昼夜の対応を職員間で共有している。夜間のみ、ポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック用を活用し便秘の管理を行っている。便秘の方には訪問看護と連携をとり、下剤の使用や水分摂取を促す等して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間は可能な限り入居者の希望に沿えるように努めている。入浴剤の使用や好みの湯温の調整等を図り、入浴を楽しんで頂けるように努めている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望で柔軟に対応している。1階に機械浴、2階に個浴が設置され、利用者の希望や状態で選択している。個浴でゆっくり入浴を楽しんだり、機械浴で安全に入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や意思に応じて居室で休憩時間を設けている。また、夜間眠れない時には飲み物を提供したり、入居者様の話を傾聴し気分落ち着かせる等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては薬剤管理指導を受けている。服薬介助に関しては入居者にあったタイミングや、服薬しやすいような工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にして洗濯たたみや食器洗い等役割を持って過ごして頂いている。また、習字、計算、散歩、塗り絵等個々の趣味に応じた活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出支援や買い物等には行けないが、近隣の散歩(公園)には出かけ季節感を感じて頂くように努めている。	以前は、近隣の店へ出掛け、利用者自身で買い物をする、支払うなどの支援を行っていたが、現在は、外出を自粛している。利用者にも新型コロナの感染予防の為の自粛であることなど、時間をかけて説明し、近隣の公園への散歩や、窓越しに景色を眺めることで気分転換を図っている。	

岐阜県 ファミリーケア本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族同意のもと、各入居者のおこずかいを預かっており、必要時はそこから支払いを行っている。また、自己にて管理したい方に対しては、御家族と相談しながら、職員が管理する金銭と自己にて金銭管理を分けて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自身が携帯を所持している方もみえるので、必要時は職員が間に入り会話の補助を行っている。届いた手紙は御本人に手渡し、内容伝達の補助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に四季を感じて頂けるよう作品を作成し、壁に飾り鑑賞できるようにしている。また、食事中にはテレビを一旦消して音楽やラジオのみ流す等食事に集中できる環境を作っている。	ZOOMによる、リモート調査を実施。写真やタブレットにて、共用空間の様子を確認することになった。壁には、利用者一人ひとりが、今年の願いを書いた絵馬を飾っている。コロナ禍の今、利用者もマスクを着用し、テーブルには利用者との間にアクリル板を設置するなど、ホーム全体で感染予防対策に取り組んでいる。一人用のテーブルも設置し、利用者が好きな場所で過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内にソファを置いて寛げる場を提供している。また、独りで過ごすことを好んでいる方には、ユニット内に独り用のテーブルも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や好みの物を持参し置くことができるようご家族に伝え、以前の暮らしの生活空間に出来るだけ近づけることで、安心して暮らせる環境づくりに努めている。	居室扉には、大きな文字の表札と好みの飾りで、自分の居室が分かり易くなっている。部屋には洗面台と収納家具が設置され、洗面台には化粧品などを並べている人もある。職員から贈られた誕生日を祝う色紙や思い出の作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の居室扉に分かりやすく名札を付け、自分で出入りするにあたって間違えないようにする為の工夫をしている。入居者が洗濯干しができるよう、簡易的な物干しを用意し、洗濯物干しをして頂いている。また、トイレや浴室に手すりを設置することで安全に動作を行うことが出来るよう環境整備を行っている。		